

2017 年度

檮祭本部環境部活動報告書

目次

1. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P1
2. ゴミ総量カウント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
3. ゴミステーションの導入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P5
4. エコプレートの導入推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P7
5. ゴミのリサイクル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P10
6. 廃油のリサイクル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P13
7. 総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P15

1. はじめに

私たち櫛祭本部環境部は櫛祭で出るゴミの削減と、ゴミをできる限り再生利用することと、来場者や参加団体の環境意識の啓発を行うことを目的とし、有志で活動しています。

この環境報告書は、その1年間の活動を総括したものです。

第56回では、櫛祭1日目の雨天の影響で、ゴミステーションの運営が困難になるなどのトラブルもありましたが、第55回同様にゴミ回収に努めることが出来ました。

私たちの活動は櫛祭本部員のみではなく、参加団体・来場者・学園・企業など、多くの方々にご協力いただき成り立っております。本誌を読んでもいただくことにより、櫛祭本部環境部の活動とその実績を知っていただき、皆様が環境活動に興味を持っていただければ幸いです。

第57回櫛祭本部環境部長 押上徹大

2. ゴミ総量カウント

[意義・目的]

櫛祭期間中に排出されたゴミの総量や分別されたゴミの種類を把握することが目的。期間中に排出されるゴミの実態を客観視し、資料に残すことで、来年度以降のゴミに関する対策の礎とすることができる。

[活動内容]

櫛祭期間中に出たごみの総量を、種類別に計測した。

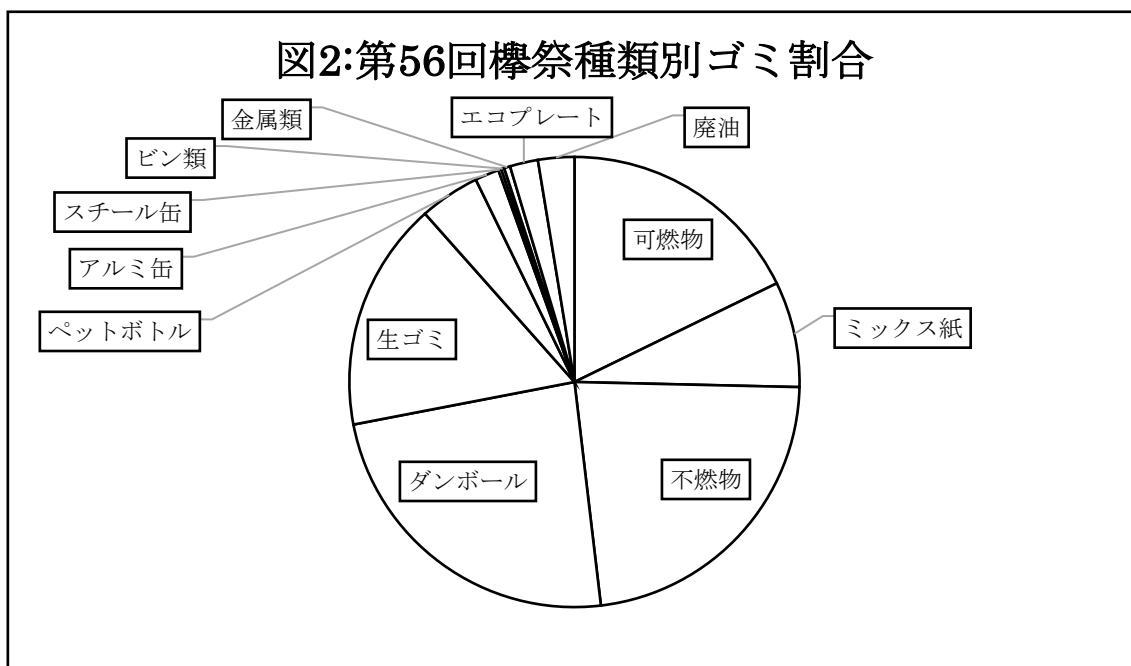
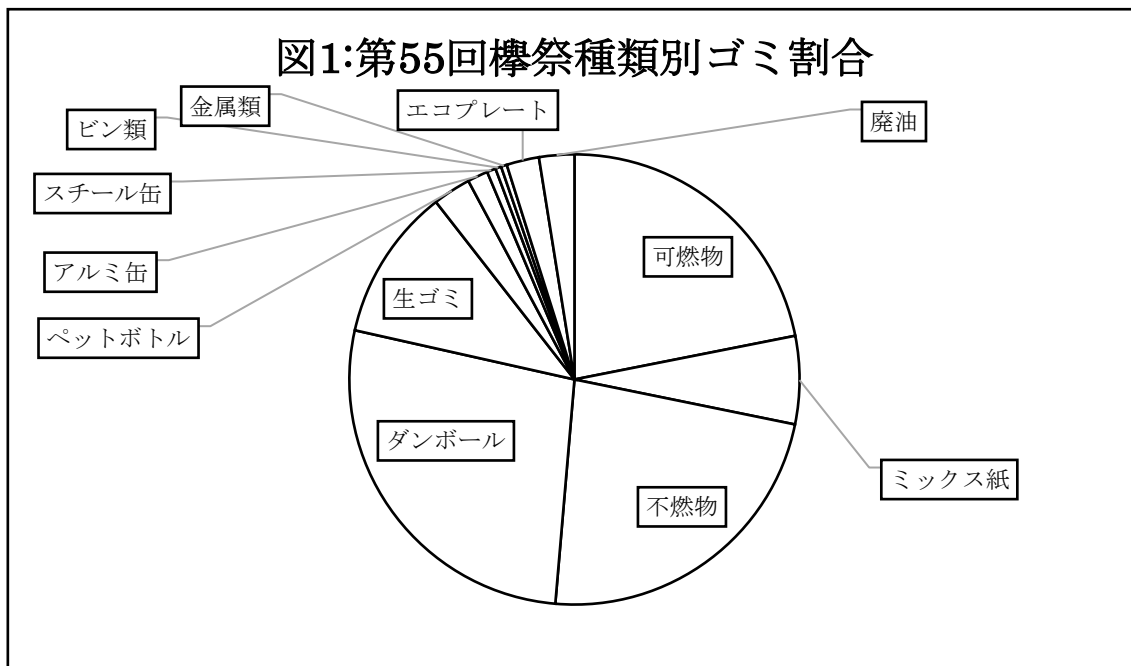
[結果]

今年度と昨年度で比較した種類別のゴミ総量を以下の表1に示す。

種類	総量 (k g)		総量比較	第 56 回 全体割合
	第 55 回	第 56 回		
可燃物	1040	820	-220	17.8%
ミックス紙	300	350	+50	7.6%
不燃物	1100	1050	-50	22.8%
ダンボール	1290	1100	-190	23.8%
生ゴミ	520	760	+240	16.5%
ペットボトル	130	200	+70	4.3%
アルミ缶	70	80	+10	1.7%
スチール缶	30	10	-20	0.2%
ビン類	20	10	-10	0.2%
金属類	20	20	+0	0.4%
エコプレート	111	93	-18	2.0%
廃油	120	120	+0	2.6%
総計	4751	4613	-110	100%

表1：今年度と昨年度の種類別のゴミの総量比較

次に、昨年度と今年度の種類別のゴミの割合を表したグラフを以下の図1、図2に示す。



[考察]

昨年度は櫛祭期間中に雨が降ってしまったため、濡れたダンボールをリサイクルすることができなかったが、今年度ダンボールは濡れていてもリサイクルできることが判明したので雨の影響を受けることはなかった。しかし総量は減ってしまった。ゴミの総量は全体的に減少したが、生ゴミが大幅に増加したため、参加団体との連携を深めるとともに、櫛祭本部を始めとする参加団体や来場者の方々にも、ゴミのリサイクル活動への理解を深めていただく必要があると考える。

[今後の活動]

櫛祭に来場してくださる方々にゴミの分別について知っていただき、ご協力していただくために引き続き立て看板を設置する。また、リサイクル率向上のために環境部のみならず本部員一人一人がリサイクル活動への関心を高め、櫛祭本部全体でリサイクル活動を推進していきたい。

第 56 回櫛祭本部環境部リサイクル担当 篠原理奈

3. ゴミステーションの導入

[意義・目的]

学内にゴミステーション（以下GSとする）を設置することで、櫛祭中のゴミの分別と回収効率を更に向上させる。

[活動内容]

櫛祭中にゴミ枠を用いたGSを屋外に6か所(p6 図3 参照)と、ダンボールで作成したGSを1号館1階の室内休憩所に1箇所設置し人員を2人常駐させた。屋外のGSにはそれぞれA～Fまで名前がついている（以下GS(A)などと表す）。屋外のGSのうち3か所GS(C・D・F)にはテントを設置した。

[結果]

多少トラブルはあったが、無事来場者のゴミ回収に務めることができた。

[考察]

例年通り、無人のGSは作らずに常に人員を常駐させる形を取った。人員を常駐させることで、ゴミを捨てに来る来場者に対して分別の手助けができたと思われる。

昨年度、雨天時にテントがないGSを畳んだことで、テントがあるGSの負担が増えてしまったため、今年度は昨年までテントなしだったGS(D)をテントありにした。その結果、今年度は雨天時のGSの運営が昨年度と比べると楽になった。一方で、雨天時にテントがないGSを畳むことには手間取ってしまった。

例年の課題となっている紙ごみの分別については、今年度より本部員がゴミを受け取り、紙ごみを分別するという形をとったが、本部員の分別に対する知識が足りておらず、思うように分別がうまくいかなかった。

11時～13時は、最もごみが捨てられる時間帯であるため、GSにすぐにゴミがたまってしまうというのも例年の課題であったが、今年度はそこまでたまることはなかった。

[今後の活動]

今年度の反省を活かし雨天時対応マニュアルを作成し、分別などとともにしっかりと本部員に周知させる。また、来年度もGSにゴミがたまらないようにしっかりと本部員内で連携をとっていく。

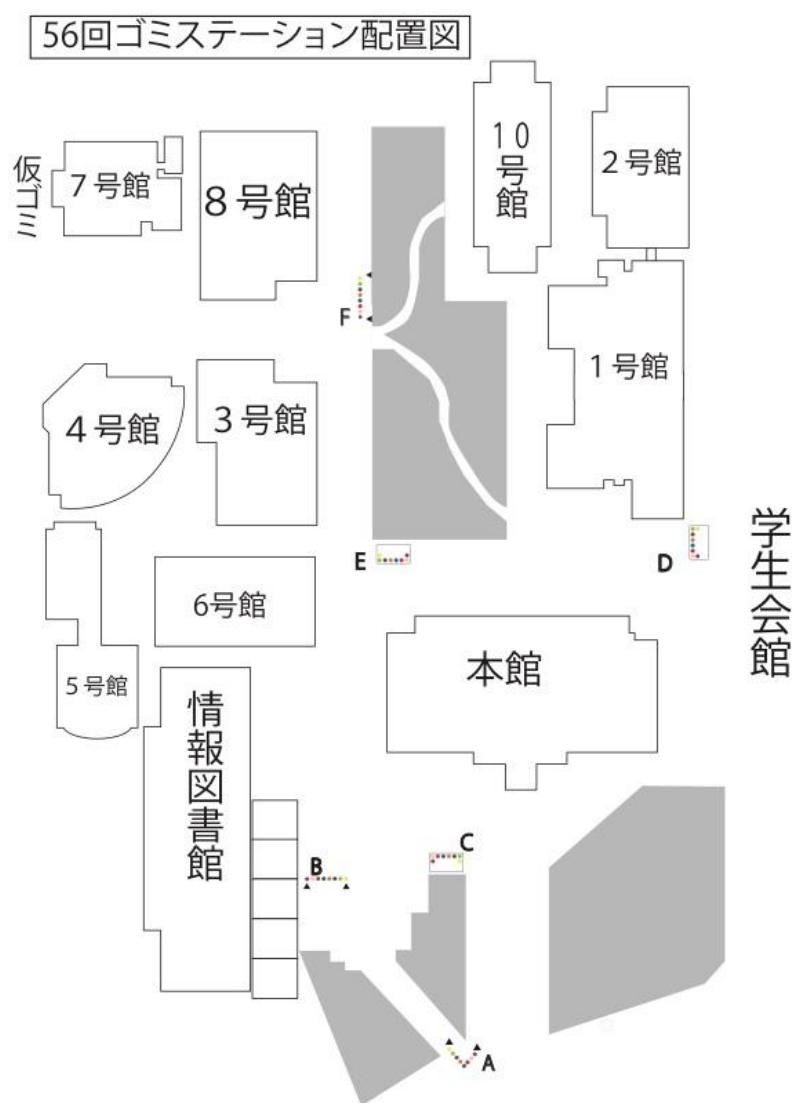


図3：第56回櫛祭ゴミステーション配置図

第56回櫛祭本部環境部ゴミステーション担当 押上徹大

4. エコプレートの導入推進

[意義・目的]

資源の有効活用・ゴミ総量の削減を図り、より環境に優しい学園祭を目指す。
環境負荷の少ない容器の導入を推進、および容器のリサイクルを行う。

[活動内容]

エコプレート・非木材紙コップの導入推進

1. エコプレート・非木材紙コップの導入について

擲祭本部で参加団体に対し導入を促す広報(詳しくは後述)を行い、参加団体の注文を取りまとめて発注を行った。

エコプレートとは、プラスチックの三層構造の容器で、容器内側のフィルムを剥がすことが可能な容器(商品名:P&Pリパック)の総称である。

※P&Pリパックとは

P&Pリパックとは、容器内側のフィルムを剥がすことにより、容器をリサイクルすることができる。フィルムは基本的に可燃ごみとして処理でき、焼却をしても無害である。ただし武蔵野市の基準により、擲祭期間中においてフィルムは燃えないゴミとして処理した。フィルムを剥がした容器は、回収後企業に返送し、新しい容器の原材料となる。またこのP&Pリパックを100枚リサイクルするとCO₂を4.2g削減できる。

購入元:株式会社ヨコタ東北(参考:<http://www.yokota-co.co.jp/>)

※非木材紙コップとは

非木材紙コップとは、原材料に木材を使用せず、代わりに一年草であるケナフを使用しているコップである。ケナフは木材に比べて成長が早く、一度に収穫できる繊維も多いため環境への負荷が少ない。擲祭期間中、使用後の紙コップは武蔵野市の基準により、燃えるゴミとして処理した。

購入元:新陽商会

2. 模擬店団体・展示団体への広報について

主に参加団体向けの会議において、P&P リパックを 4 種類(角トレイ 2 種類・おわん型 2 種類)、非木材紙コップ(9 オンス-約 275cc)1 種類を口頭および書面で紹介・斡旋した。

- ①比較的安価であること。
 - ②企業との交渉・購入・保管などにかかる手間が省けること。
 - ③購入した団体は、企画局が行っている「団体企画」に加点がされること。
- 以上の 3 点をメリットとして重点的に広報した。会議以外の広報手段としては HP、立て看板を用いた。

[結果]

1. P&P リパックと非木材紙の最終的な発注数

今年度と昨年度の P&P リパックと非木材紙の最終的な発注数を以下の表 2 に示す。

種類	第 55 回		第 56 回	
	枚数	団体数	枚数	団体数
トレイ	8,900	13	8,600	12
おわん	3,400	5	2,000	4
P&P リパック合計	12,300	18	10,600	16
コップ	3,800	6	2,900	4
総計	16,100	24	13,500	20

※複数種類購入する団体は合計においては単数で計上する

表 2： P&P リパックと非木材紙の最終的な発注数

2. 「P&P リパック」リサイクル結果

回収率：89.9% P&P リパック合計 93.1 kg のリサイクルに成功

(昨年度の回収率は 98.4% P&P リパックを合計 111 kg リサイクルした。)

[考察]

P&P リパック、非木材紙コップともに昨年と比較して購入数、導入団体数、回収率ともに減少した。購入数、導入団体数の減少については、全体の出店団体数の減少にかさね例年購入している団体の未出店があげられる。また、購入が 1 団体のみ P&P リパックの種類があるので、出店団体をみて取り扱う種類を変更していきたい。

回収率が減少した要因として、未使用分の回収をするという団体への周知不足や、エコプレートのリサイクル基準を曖昧にしていたことなどが考えられる。特に後者は、汚れや焼けなどの回収基準を厳しく設定してしまい、リサイクルできるはずのものをできなくしてしまった。業者に問い合わせ、正しい基準を再認識しなければならない。

[今後の活動]

全ての模擬店団体に P&P リパック、非木材紙コップを使ってもらえるように広報活動に力を入れ、P&P リパックの種類などを見直し、よりよい企画とする。

第 56 回 櫻祭本部 環境部 エコプレート担当 曾根美珠紀

5. ゴミのリサイクル

[意義・目的]

櫛祭期間中に排出されるゴミをリサイクルすることで、環境の保全に寄与する。
また、リサイクル率の向上に努める。

[活動内容]

1. 割り箸、アルミ缶、その他のリサイクル
2. リサイクルの啓発活動

1. 割り箸、アルミ缶、その他のリサイクル

● 割り箸

➤ 利用方法

木の割り箸→紙製品やパーティクルボードに再生される。

竹の割り箸→パーティクルボードに再生される。

➤ リサイクル業者

わりばしリサイクルグループ「くるりん」

➤ 対応方法

本祭終了、割り箸を詰めたダンボール約 10 箱を 12 月 7 日に調布市
菊野台地域福祉センターに運んだ。

● アルミ缶

➤ 利用方法

融解されアルミ製品、または再びアルミ缶へリサイクルされる。また、回収されたアルミ缶から再生地金を作るエネルギーは、原料のボーキサイトから地金を作る時のエネルギーよりも 97%削減される。

➤ リサイクル業者

新菱アルミリサイクル

➤ 対応方法

本祭終了 2 日後に回収に来ていただいた。

● その他

以上が本年度櫛祭本部が独自で行ったものであるが、総合整備へ委託という形で次のものがリサイクルされている。

① 燃えないゴミ

プラスチック類、ビニール類が該当。固形化して燃料（R P F）となる。固形化できないものは焼却するが、燃焼熱を利用した温水プールなど、サーマルリサイクルも実施している。

② 燃えるゴミ

総合整備から清掃工場に持っていき焼却される。

③ 紙全般

シール台紙・耐水紙を除く、全ての紙、または紙製品が該当。リサイクル後は雑誌用紙や図画用紙・OA用紙・トイレットペーパー・ティッシュペーパーとなる。

④ スチール缶

再製鉄されスチール製品、または再びスチール缶へリサイクルされる。この場合、鉄鉱石から鋼材を製造する場合よりも、エネルギーは75%削減される。

※ガス缶は有害ゴミのためリサイクル対象ではない。

⑤ ビン

金属原料やスラグ化・発電へリサイクルされる。

⑥ ペットボトル

繊維製品、固形燃料、シート製品、成形品、またはペットボトルへリサイクルされる。資源ではあるが、ペットボトルのリサイクルは「チップ化後、焼却」というようにリサイクル過程での環境負荷が大きい。

⑦ ダンボール

リサイクルされると再びダンボールとなる。ただし、装飾等により加工が施されたダンボールはリサイクル出来ず、燃えるゴミとして扱う。

⑧ 廃油

主に家畜の飼料となる。詳細は廃油のリサイクル企画のページを参照。

⑨ エコプレート (P&P リパック)

再びエコプレートとなる。詳細はエコプレートの導入推進のページ(p7)を参照。

2. リサイクルの啓発活動

I. 本祭前の総責任者会議にて櫛祭参加団体にゴミ分別リストを配布する。

これは参加団体にゴミの分別を正しく、スムーズに行ってもらう為に実施するものである。分別リストは高嶺清掃のゴミ分別基準に沿って作成した。ちなみに同様のリストを本部員にも配布している。

II. リサイクル立て看板の設置

来場者及び櫛祭参加団体に対し、リサイクル活動に協力してもらいやすくするために制作・設置した。内容はエコプレートの剥がし方、ゴミステーションの詳しい分別項目などである。

[考察]

昨年度から委託業者が変わったが、今年も業者との打ち合わせを重ね事前準備をしっかりとしたため、円滑な回収が行えた。業者との連携はうまくいったのでよかった。

[今後の活動]

来場者、参加団体、そして本部員のゴミ分別の徹底を継続すること。また、部員の分別の認識が甘い印象を受けたため、分別テスト等を行い熟知させる。来場者、参加団体に対しては引き続き立て看板を設置する。

第 56 回櫛祭本部環境部リサイクル担当 篠原理奈

6. 廃油のリサイクル

[意義・目的]

模擬店から排出される油を回収することで、櫛祭における廃棄物を削減する。また、廃油の有効活用を目的とする。

[活動内容]

1. 概要

第5回総責任者会議後に廃油排出団体を絞り込んだ。櫛祭期間中、揚げ物など大量に食用油を使用した模擬店団体（13団体）から出た廃油をペール缶で回収した。その後、有限会社G&Fサービスの協力により廃油を飼料として再利用することが出来た。

2. 廃油の回収について

ペール缶（蓋つき・バケツ型・18リットル）30缶を本祭当日の朝に団体に配布した。模擬店営業時間終了後に、櫛祭本部員が回収。夜間シフトで油を濾し、学生会館横のガレージで保管するシステムをとった。

第56回櫛祭の廃油排出団体は以下の表3に示す。

体育会漕艇部
理工学部硬式庭球部
トリアルテニスクラブ
SWINGテニスクラブ
硬式庭球同好会 Cream
アースエラスティックサッカークラブ
アウトドアサークル「JADE」
体育会ヨット部
体育会陸上競技部
体育会ライフセービング部
La rovina
体育会硬式庭球部
歩く会
体育会軟式庭球部

表3: 第56回櫛祭廃油排出団体

[結果]

今年度リサイクルできた廃油は 120kg だった。昨年度とほぼ同じだった。

[考察]

業者との連絡を円滑に進められた。廃油排出団体数は昨年度とほぼ同じで、排出量もほぼ同じだった。このことを考慮すると、今年度も櫛祭における廃棄物の削減をしっかりと行えたとは、自信をもって言えるものではない。今後は、どのような工夫をすれば、団体の廃油排出量が削減できるかのアイデアを考えていくべきだと考察した。

[今後の活動]

早い段階で総責任者会議での広報を行い、廃油回収率を上げる。こちらから一方的に廃油排出団体を選ぶのではなく、団体側にも呼びかけるようにして、廃油排出団体選出を徹底する。

また、パール缶を購入した為それをしっかりと活かせるように担当での話し合いも必要である。

業者に回収を依頼するだけでなく、廃油を再利用する活動も考える。

第 56 回櫛祭本部環境部廃油担当 矢作太一

7. 総括

初めに、第 56 回櫛祭においてゴミの分別、リサイクルにご協力いただいた来場者の皆様、参加団体の皆様に本部員一同心より厚く御礼申し上げます。

第 56 回櫛祭では、リサイクル活動に力を入れることで焼却ゴミの削減に取り組みました。雨天等のトラブルもありましたが、来場者の皆様をはじめ、学園、市役所、企業の皆様のご協力のもと、焼却ゴミを削減することに成功しました。この結果に満足することなく、私たちの環境への取り組みは続きます。毎年開催される学園祭が最後まで楽しく安全で環境に配慮されたイベントになるようにこれからも活動していく所存です。

第 56 回櫛祭本部環境部長 大塚尚輝

発行 成蹊大学 第 57 回櫛祭本部環境部
2018 年 4 月 26 日 発行